

みんなのた場



皿貝法印神楽保存会

地域の伝統守り続けて
400年続く民俗芸能

皿貝法印神楽保存会は、400年前の江戸時代に伝わった民俗芸能を継承し続けています。

保存会は皿貝神楽団として明治12年に結成し、昭和55年に現在の名称となりました。20〜70代の会員15人がおり、毎週水曜、土曜日に地元の大日霊（おおひるめ）神社の社務所で練習を重ねています。

同神社の口伝によれば、皿貝法印神楽は1616年、京で能を習得した法印が帰郷し、「古事記」を台本に作っ

たといいます。江戸時代は法印たちが神楽舞を奉納していましたが、明治時代の神仏分離令で消滅の危機に瀕しました。そこで、当時の宮司が尽力し、一族や氏子に受け継がれました。

県の指定無形民俗文化財であり、保存会は文化庁の「2024年度地域功労者表彰」も受賞しています。コロナ禍では活動が縮小しましたが、それを乗り越えて現在も地域のイベントなどで舞を披露。新市施行20周年記念式典にも招かれ、勇壮な神楽

で会場を魅了しました。

宮司の及川健さんは「今あるこの神楽を、確実に次の世代へつないでいき、残していくのが責務。皿貝地区の皆さんの協力があったからこそ、ありがたい」と感謝していました。

保存会会長の佐藤正美さんは「25歳から会に入り、先輩方に教わって踊りや笛、太鼓を覚えていった」と懐かしみます。口伝のため、昔は身振り手振りをその場で見て覚えるのが基本でした。

最近では動画を撮影し、過去の神楽舞もインターネットで確認できるようになりました。習得の壁が低くなっており、24歳で最年少の会員である佐藤海渡さんは「小学校時代から興味がありません。まだ2年目で舞の完成度は先輩方には遠く及ばないですが、認めてもらえるように精進していきます」と熱意を込めていました。



20〜70代の会員がいます



6月7日の新市施行20周年記念式典で公演しました

きらり★まきっこ 17

目指すは全国入賞

あべ じゅんや
阿部 純也さん (向陽小5年生)

父が指導員をしている日本空手協会渡波支部に所属し、1年生の頃から空手道に励んでいます。

試合で戦っているときが一番好きです。4月に大和町であった宮城県空手道選手権大会では5年生男子組手で準優勝し、6月の東北大会と8月の全国大会の出場権を手に入れました。去年は団体戦で全国大会に出場しましたが、1回戦で負けてしまったので、今年は上位入賞ができるように頑張りたいです。

得意技は相手の上段めがけて放つ「刻み突き」です。普段から構えが崩れないように体幹や足腰を鍛え、基本に忠実な練習を心掛けています。

サポートしてくれている両親と、技を高め合える仲間、指導していただいている先生たちに感謝し、今後も努力していきたいです。



市報いしのまき 第324号 令和7年8月1日発行
発行 石巻市総務部秘書広報課 ☎0225-95-1111 FAX23-4340
〒986-8501 宮城県石巻市穀町14-1

編集/制作 (株)石巻日日新聞社
古紙/パルプ配合の再生紙と環境に優しい植物油インキを使用しています。再生紙としてリサイクルできます。「ざつがみ類」として分別してください。

住民基本台帳による石巻市の人口と世帯数 (前年比)			
令和7年6月末現在	人 口	131,007人	(▲2,386)
	世帯数	62,510世帯	(▲36)